

「喜界中学校・喜界高等学校の八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

喜界町立喜界中学校及び鹿児島県立喜界高等学校

2 学年・人数

中学校女子生徒72人，高校女子生徒30人 計102人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

ア 1学期後半からの保健体育の授業（各学校校庭）

イ 令和元年9月9日（月）講師を招いて練習〔中学校のみ〕（中学校体育館）

ウ 令和元年9月27日（金）中高合同練習（町総合グラウンド）

(2) 発表の日時・場所

令和元年10月13日（日）町民体育祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

(1) 名称

八月踊り

(2) 由来

「八月踊り」は町内の37集落に伝承されている。特に，集落ごとに行われる「豊年祭」や「島あそび」の際に踊られており，集落によって唄や踊り方に違いがある。また，踊られる行事も集落により異なっている。

(3) 構成等

「八月踊り」の特徴として，太鼓を持つのは原則として男性であり，皆が輪になり，同じ動きを繰り返しながら踊る。一昔前までは，唄者が実際に唄いながら踊っていたが，現在ではCDを音源として用いて踊っている。

5 保存会や地域との連携の具体

喜界島郷土研究会が中心となって，各集落の八月踊りDVDを製作した。中学校においては，集落の方に直接指導を受けるが，始めは踊りを覚えるためにこのDVDを活用する。高校生は直接指導はなく，DVDのみである。集落によって唄や踊り方が違うため，毎年，各集落持ち回りでの八月踊りとなっている。本年度は，手久津久集落の「八月踊り」の練習に取り組み，町体育祭で発表した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

中学生は，毎年，該当する集落の方に指導をしてもらっている。また，合同練習の場では，中学生と高校生と一緒に踊ることにより，高校生が中学生に指導をしながら後輩を励まし，中学生は高校生の態度を見ながら学ぶことも多い。町民体育祭の場で中高生が八月踊りを始めて数十年と歴史は長く，八月踊りを楽しみにしている高齢者や地域の方も多い。

7 取組の様子



【講師を招いての練習（中学校）】



【町民体育祭での発表】

8 参加生徒・保護者・保存会・教員等の感想や意見

○ 生徒の感想

- ・ 八月踊りの練習や発表に取り組むことが楽しかった。発表のときは、観客との距離が遠くて少し寂しかった。（1年生）
- ・ 最初は、少し踊ることが恥ずかしくて抵抗があったけど、踊ってみたら楽しくできた。（2年生）
- ・ みんなで輪になって楽しかった。（3年）
- ・ 高校生の先輩方と久しぶりに会えてうれしかったです。
- ・ 今年の集落の八月踊りは、覚えるのが簡単で曲が短かったなので、町民体育祭では、もっと長く踊りたかった。（3年）

○ 教職員の感想

- ・ 生徒は、積極的に練習に取り組み、動きもスムーズであった。地域の方を講師として招き指導をしていただいた。生徒も、自然な流れで踊りに取り組んでいた。このような機会を設けることは大切だと感じた。